

学ぶ意味 — インタビュー&意見文 — 全体像説明プリント

市立札幌藻岩高等学校 對馬光揮

1.内容

「学ぶ意味」について多様な意見に触れながら自分の考えをまとめ、読み手の理解が得られるように、根拠を示しながら筋道を立てて意見文を書く。

2.伸ばしたい力

a	主張と論拠の関係性や、その妥当性について理解する力	c	インタビューや読書など様々な観点から情報を収集して、伝える内容を検討する力
b	聞き取ったり読み取ったりした情報をもとに、自分の考えを広げたり深めたりする力	d	読み手の理解が得られるように、論理の展開や文章の構成を工夫する力

3.全体の流れ

STEP1	「学ぶ意味」をテーマにクラス全体で意見を共有する。
STEP2	先輩(+保護者)にインタビューする。
STEP3	「学ぶ意味」というタイトルで意見文を書く。



STEP1 視野を広げる

STEP2 質問する・聴く

STEP3 考える・書く

4.インタビューのコツ

	良いインタビュー	悪いインタビュー
1	質問の意図が明確	質問の意図が不明瞭
2	相手を尊重し、経験を引き出す	質問者側の視点に偏っていて、決めつけが含まれている(誘導質問)
3	他者の役に立つような「具体的な情報」を引き出す	1つの質問に複数の質問が含まれている
4	話を深掘している(〇〇の時、具体的にどうしましたか? その結果、どうなりましたか?)	用意した質問を機械的に読む
5	相手の話を受けて、次の質問に繋げる(今の話で〇〇について気になったのですが)	相手の発言を無視して次に進む
6	失敗談も聞く	Yes No で終わる質問ばかり(深堀できていない)
7	相づちやうなずきで「話しやすい雰囲気」を作る	次の質問を考えていて話を聴いていない

5.作文・意見文・小論文の違い

	作文	意見文	小論文
目的	自分が感じたことを表現する	自分の意見を理由とともに述べる	問いに対して主張を論理的に説明する
主観・客観	主観的でいい	主観的でもいい	客観的でなければならない
内容	自分の体験や感想	意見と理由	主張と客観的な根拠
表現技法	使用してもいい	使用しない	使用しない
構成	自由	結論・本論(理由と具体)・結論	結論・本論(客観的な情報)・結論

6.意見文の基本

	構成	注意事項
1	自分の意見を端的に述べる	1 敬体(です・ます)ではなく、常体(だ・である)で書く
2	理由として、具体例を挙げる	2 段落を分け、段落ごとに最初の一行を空ける
3	理由として、考察したことを述べる	3 話し言葉は使わない(「じゃ」「では」「なんだ」とは「なのだと」にするなど)
4	「以上のことから」という書き出しで1の意見を再度記し、結論を述べる	4 「なぜ～なのか」「ではないだろうか」といった問いかけはNG
		5 3つ以上の並列は避ける(「私が～と考える理由は3つあります。1つ目は…」はNG)

*具体例を考えてから、意見を決めましょう。具体例の充実が考察の充実に繋がります。
 *一般的には、「なぜ～なのか」という問いかけは問題提起として有効ですし、複数を並立する意見の述べ方は分かりやすく良い構成です。(英作文でも並立は使える手法)
 *しかし、意見文では限られた字数で主張を展開しなければならないため、問いかけなどの余計なフレーズはできるだけカットする必要があったり、内容が薄まってしまうような3つ以上の並列は使わないのが意見文の基本です。
 *一方で、複数の視点から理由を述べることは重要なことなので、その際は「また」という接続詞を用いて、理由は最大2つまでに留めましょう。
 *「もちろん」という接続詞を使って、反論を想定しながら意見を述べることができるとより良いです。